



巻頭言 『「駅伝」を通して』

学校教育課 課長補佐 田村隆

日本人は概して“駅伝が好き”とされているそうです。マラソンも人気があるとも言えるでしょうが、テレビの視聴率で言えば、国内のマラソン大会は5～15%程度であるのに対して、箱根駅伝は20%以上であり、やはり“駅伝が好き”と言えそうです。

私も、去年は子どもの影響もあり、駅伝を観戦する機会が多くありました。特に、中学校では南中学校をはじめ、十日町勢が大活躍したことは皆さんご存じのことと思います。言い方は悪いですが、子どもたちが走っている姿を見ているだけなのに大変感動しました。その背景には、“仲間”とか“責任”とか“つなぐ”という、人と人とのやり取りがあります。1人で走るより、目に見えない力が左右するのが駅伝の楽しさなんだと思います。チームによっては、ちょっと前の大会まで不調だった選手が、うそのように復活したり、予想通りすごい走りをする人がいたりします。想像できないことが起こっていたんだろうと感じながら、目を離すことなく観戦していました。

こんな感覚も、人と人とのつながりを感じていたり、それを無意識に求めていたりする証拠かもしれません。

現在、小中一貫教育の柱としている「自己有用感」を高めるには、人との関わりの中で、絆やつながりを感じ取るとともに、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識することが大切であります。

駅伝に興味をもてとは言いませんが、身近に「自己有用感」を感じられる機会、場面があると思います。このような機会、場面を通じ、いかに子どもたちに伝えていくかを改めて考えていきたいと思っています。

小中一貫教育

■ 小中一貫教育取組評価について

取組評価アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。今年度よりペーパーレスによる省力化・省資源化をねらって、ネットワークを活用したアンケートに着手しました。教育委員会側の準備不足や子どもたちの入力ミスが想像以上であったために、先生方にデータの点検等お手数をおかけした面もありました。今後も、皆様のご意見をお聞きしながら改善を加えて進めていきたいと思えます。

以下、市全体のいくつかの傾向についてお知らせします。

①児童生徒について

- ・「学校が楽しい」「交流活動が楽しい」等について昨年下がった項目も回復傾向にあります。
- ・「自己有用感」に関わる「自分にはよいところがある」「人の役に立つところがある」についても、昨年下がった数値が回復傾向にあります。
- ・新しい項目「いじめはどんな理由があってもよくない」は、「そう思う」が90%となりましたが、どんな場合もいじめは許されないという機運を高めるためにも100%を目指していききたいと思えます。

②教職員・保護者について

- ・教職員は、どの項目も高い数値となっており、高い意識をもって取り組んでいただけであることがうかがえます。
- ・保護者については、どの項目も80%を超える肯定的評価をいただいています。肯定的な評価をしない方々のご意見も何らかの形で聞くことができれば次の取組にもつながるのかと思えます。別の機会での情報収集と合わせて検討していくことが求められます。

③メディアアンケートについて

- ・家庭でのスマートフォンやPCなどのネットワーク等の活用は、毎日1時間以上が小学生で50%、中学生で80%を超えており、子どもたちも本格的にネットワーク社会に生きていることが分かりました。
- ・電子ゲームに関しては、毎日2時間以上している小学生が20%、中学生が30%おり、生活リズムや健康に関する心配があります。

詳しいデータについては職責別のサーバーに保存してあります。保存場所については、各学校の小中一貫教育推進コーディネーターにお聞きください。

■ 次年度に向けて

1月から2月にかけて第2回小中一貫教育計画訪問で、各中学校区を回っています。上記の取組評価の結果と次年度にお願いしたいこと等をお知らせしています。

お願いしていることは次の3点です。

- ①「自己有用感」を学校や中学校区のグランドデザインに位置付け、各取り組みの質を上げてもらいたい。
- ②「自己有用感」を高める実践報告のお願い。

締切は2月末です。各校2例以上です。

日々のちょっとした実践でも結構です。互いのよい実践を共有しましょう。

- ③令和4年度は夏休みの「全体研修」はない年となるが、中学校区毎に「自己有用感」に関わる独自の切り口で研修を実施してほしい。



教育相談班より

「不登校・いじめの減少」に向けて

第2回いじめ防止対策研修会 11月17日（水）十日町情報館

講師に中越教育事務所学校支援第2課の佐藤典人指導主事をお招きし、生徒指導担当職員を対象とした研修を行いました。十日町市や中越管内の現状を元に、いじめの定義や初期対応・未然防止等について再確認しました。その後、自校の現状や課題を洗い出し、それを情報交換することで今後の自校の取組を考えていきました。生活指導主任、生徒指導主事としての課題を明らかにし、他校の取組からヒントを得ることができ、実感を伴った学びとなりました。



第2回不登校対策研修会 11月25日（木）千手中央コミュニティセンター

講師に中越教育事務所学校支援第2課の長谷川成生指導主事をお招きし、管理職を対象とした研修を行いました。不登校対応のポイントである「初期対応」「社会的自立支援」「未然防止」について、十日町市の現状や他市の事例等を元にしながらか進めていただきました。また、子どもを支えるのは教師であり、教師集団の日常的な情報交換が大切であることを学びました。

通常学級担任
向け

「特別支援教育の充実」に向けて

第8回特別支援教育研修講座（初級講座②） 12月27日（月）南中学校

ふれあいの丘支援学校の秦野教頭先生より、「通常学級における特別な支援が必要な児童生徒への支援の在り方」についてご講義いただきました。秦野先生のこれまでの通級指導の豊富な経験から、実のある研修となりました。特に、「まずは学級全体への指導、個の対応はその次」「学級づくりの土台として、場の構造化・時間の構造化・刺激量の調整」「認める・ほめる>注意」などが大切であることを学びました。

文部科学省のこれまでの調査から、「通常学級には、発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）の可能性のある児童生徒が6.5%程度在籍している」とされています。特別支援教育を担うのは「全ての教師」であることを基本に、今後も研修を積んでいきたいと思います。

保幼小の連携に向けて

保幼小連携職員研修会 12月1日（水）千手中央コミュニティセンター

講師に新潟青陵大学の齊藤勇紀准教授をお招きし、「保・幼・小の接続に関する現状と課題」についてご講演いただきました。特に、保育の質と保育の専門性、特別な配慮を必要とする子どもへの支援、学校への接続についてお話いただきました。その後、保小の接続について、グループごとに情報交換・情報共有し、研修を深めました。



学習指導班より

県Web配信集計システム配信問題 第3回の結果

【第1回の結果（平均正答数）】※小学校は、県小教研究習指導改善調査として実施

	小学校：国語			小学校：算数			中学校：国語			中学校：数学			中学校：英語		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
県	6.0	8.6	6.5	11.8	12.2	12.1	10.8	12.6	9.7	12.6	7.2	5.7	19.1	11.2	7.5
市	5.8	8.3	6.0	11.5	12.0	10.9	10.3	12.8	9.8	12.1	6.9	5.0	18.9	10.7	6.9
差	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-1.2	-0.5	+0.2	+0.1	-0.5	-0.3	-0.7	-0.2	-0.5	-0.6

【第2回の結果（平均正答数）】※問題数が異なるため、第1回との比較はしない。

	小学校：国語			小学校：算数			中学校：国語			中学校：数学			中学校：英語		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
県	5.9	5.4	6.3	9.2	8.7	9.6	6.6	6.8	9.0	7.9	5.7	7.3	8.9	8.6	5.9
市	5.9	5.4	6.2	9.1	9.0	9.1	6.9	7.0	9.5	7.9	5.4	7.1	8.2	8.5	5.7
差	±0	±0	-0.1	-0.1	+0.3	-0.5	+0.3	+0.2	+0.5	±0	-0.3	-0.2	-0.7	-0.1	-0.2

【第3回の結果（平均正答数）】※問題数が異なるため、第1・2回との比較はしない。

	小学校：国語			小学校：算数			中学校：国語			中学校：数学			中学校：英語		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
県	7.8	7.0	7.4	8.4	8.3	10.6	6.1	10.5	6.4	9.6	9.2	6.7	6.0	5.0	5.4
市	7.7	7.1	7.3	8.6	8.8	10.6	6.3	10.3	6.4	9.0	8.7	5.9	5.4	4.4	4.4
差	-0.1	+0.1	-0.1	+0.2	+0.5	±0	+0.2	-0.2	±0	-0.6	-0.5	-0.8	-0.4	-0.6	-1.0

○ 今回は、小学校の成績が良好でした。小4国語が前回より0.1ポイント下げた以外は、第2回の結果よりも県平均比でよい状況です。授業改善や指導強化に取り組んできた成果が表れたととらえられます。反面、中学校は大変厳しい状況です。好成績を維持してきた国語も下降傾向となり、数学と英語は0.4～1.0ポイント県平均を下回りました。できなかった部分は生徒に理解させる必要があります。

今回厳しい結果となった中学校だけでなく小学校も、年度の終わりまでにしっかりと学習内容のより確実な定着を目指し、学習の総まとめや復習を行うことが重要です。

令和4年度4月早々には「NRT標準学力検査」と「全国学力・学習状況調査（小・中とも国語、算数・数学、理科の3教科）」が実施されます。ここ数年、小・中学校とも厳しい結果が続いているので、ぜひとも令和4年度こそは！成績を上向けるには、先生方お一人お一人のがんばりと児童生徒のがんばりが必要です。児童生徒一人一人の小さな伸びを見落とさずに認めて称賛し、やる気と自信を高めてあげてください。令和3年度のラストスパートを、よろしくお願いたします。

